

# はじめに

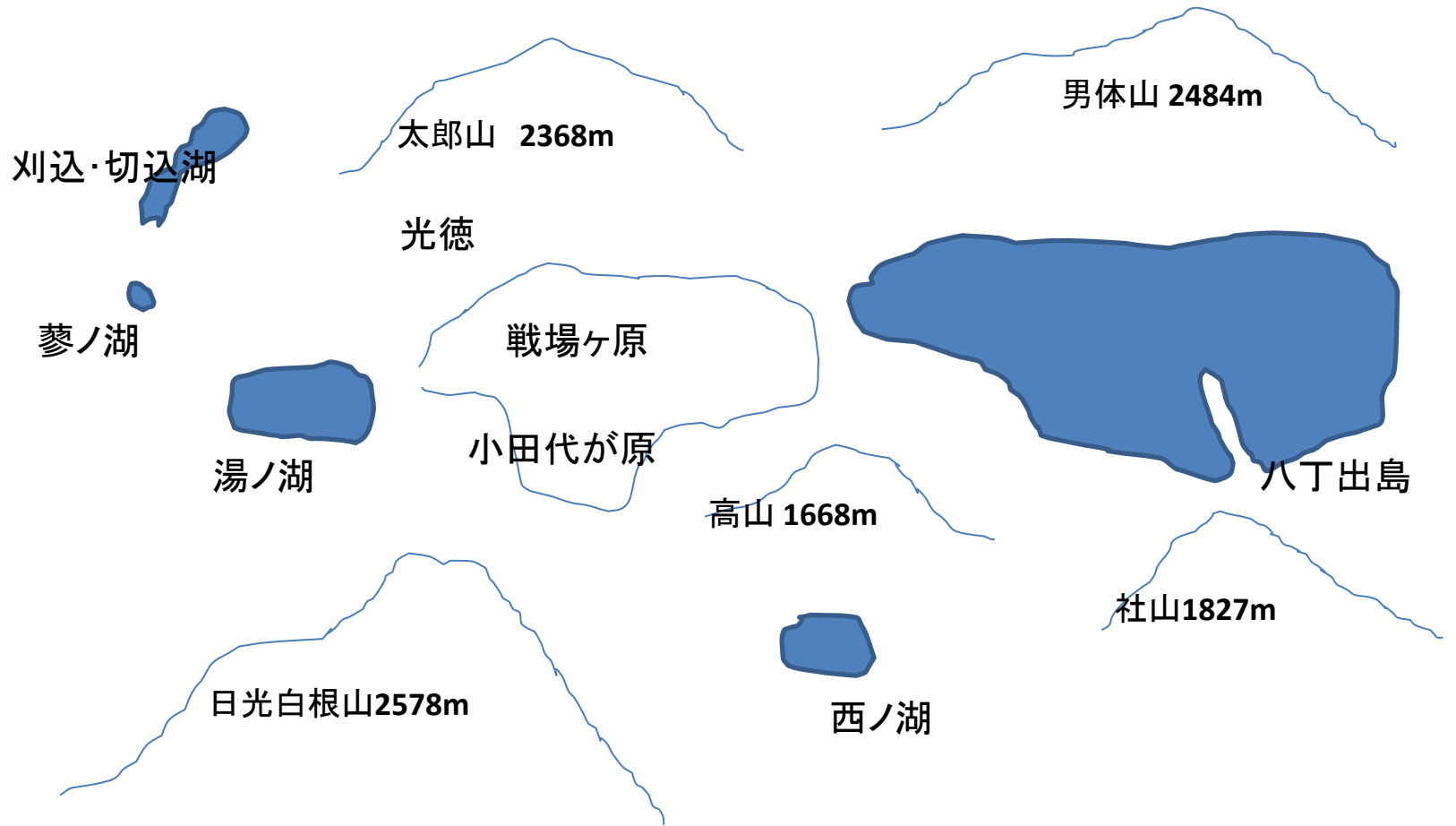
標題からして奇妙な感じがしますが、観光案内でもなければ山男のための案内でもありません。見てのとおり、私は気まぐれで足にまかせて歩いてきました。当初は日帰りコースで目的を果たしましたが、時間の経過と体力の低下は如何ともしがたく宿を取って、何度か挑戦の後やっと天候に恵まれて果たせたのが、ここに示す山々や草原です。とくに尾瀬では、夜行深夜バスで早朝につき、午後にはそのバスで帰京するといった挑戦は、長くは続きませんでした。その後、東京都の就学相談室時代の仲間との親交が、ここにあるとおりの貴重な宝を与えていただき感謝しています。関陽郎(せきようろう)、堀江繁(ほりえ しげる)、常友旭(つねとも あきら)と私ですが尾瀬にある植物の名から「ぎんりょう会」と名付けて現在も続いています。

本写真は撮りためた写真を、図示の通り鳥瞰的に戦場ヶ原や小田代ヶ原をはじめ、尾瀬ヶ原についてもわかりやすいように構成してみました。あえて断りませんが、奥日光の社山、男体山、太郎山、高山、日光白根山から、尾瀬の至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳などこれらは順序づけて登頂したのではなく、上述のとおり写真集構成の都合で並べました。また写真の選定にあたっては家族の協力も得ました。

今回の標題は、私なりに尾瀬が国立公園(2007年)として発足したことを記念し鹿の棲息活動(シカゴ学会発足を夢見て)をヒントに構成してみました。

奥日光や尾瀬では自然の厳しさ・静寂の一時を与えられますが、とくに急変する天候(吹雪や霧など)に見舞われ足下を見失います。改めて写真をとおして、これこそが自然の力であるとその強さと畏れを学ぶことができ感謝の一言です。

# 歩き廻った奥日光の山々・湖



中禅寺湖より社山、正面に八丁出島



# 左側登山道の尾根が崩落・右側渡瀬溪谷





社山より中禅寺湖, 右側に八丁出島



# 戦場ヶ原と竜頭の滝・頂上標識



# 中禅寺湖より男体山



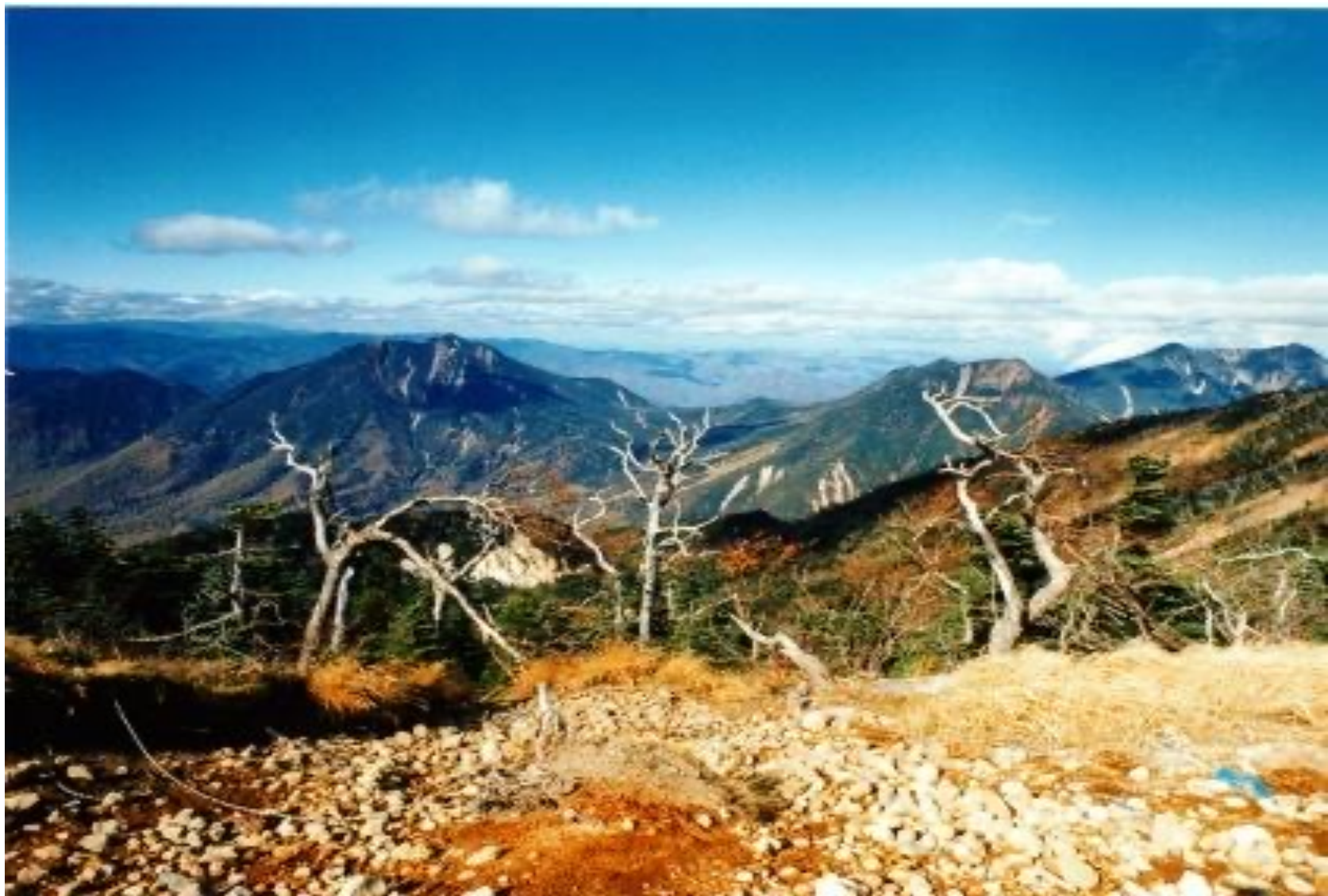


# 男体山の観音薙・眼下に中禅寺湖・社山見ゆ





頂上より遙か尾瀬を望む(左方向太郎山の背後)



## 戦場ヶ原 小田代ヶ原望む



左小太郎、右太郎山



男体山より女峰山方向





## 志津峠へ下山途中の薙 ロープあり





急登で不安定なハガタテ沢(ガレ場) 登り切ったガレ場(閉鎖中)



## 男体山を望む・左麓が志津峠





# 小太郎より戦場ヶ原・小田代ヶ原



## 金精峠方向





# 冬の光徳池



光徳より戦場ヶ原へ(正面太郎山と山王帽子) 逆川から泉門池方向



戦場ヶ原2色(同じ場所から)

1996年1月と9月





# 高山へ竜頭の滝より





# 1997年より鹿による食害防止柵(シカゴ学会設立急務が提起される)



朝の小田代ヶ原



台風一過の小田代ヶ原





# 小田代ヶ原 草紅葉



小田代ヶ原(左より太郎山、小真名子、大真名子、男体山裾のみ)





# 西ノ湖



## 中禅寺湖の源・西ノ湖(水位低下)





蓼ノ湖を下に ・ 小峠を経て刈込湖へ





刘达湖

97-9



## 刈込・切込湖の水道





切込湖へは登山道からロープで下る





# 弥陀ヶ池



# 遠くに燧ヶ岳・丸沼・菅沼





## 日光白根山頂上より五色沼





# 日光白根山より男体山



# 日光白根山より太郎山



## 湯元の星空





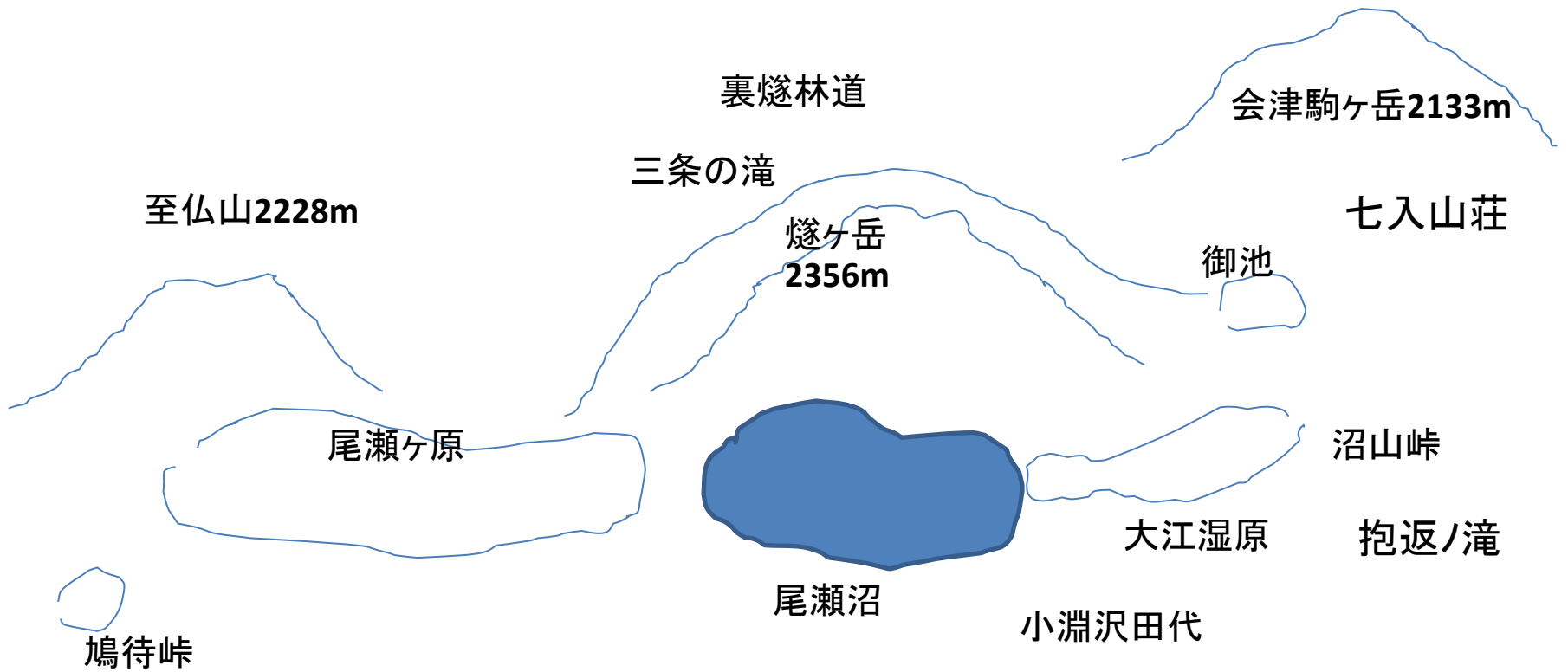
## 湯の湖・春の知らせ



湯 滝(湯の湖より戦場ヶ原へ)



# 尾瀬ヶ原の山々と尾瀬沼





尾瀬ヶ原の朝 至仏山から



## 日光白根山と男体山(左)





## 至仏山より越後三山



# 至仏(登頂)より尾瀬ヶ原と燧ヶ岳





# 至仏山より下山途中の高天原(尾瀬ヶ原の奥座敷)



# 朝靄なびく雪原





## 初夏の尾瀬ヶ原へ(原は雪解け水)



# 大堀川に咲くミズバショウ





## 池塘に映える新緑





遠くに至仏山 尾瀬ヶ原にリュキンカ(水脈あり)



# ニッコウキスゲ咲く





## 池塘の水草(オゼコウホネ)





# 秋雨に染まる尾瀬ヶ原

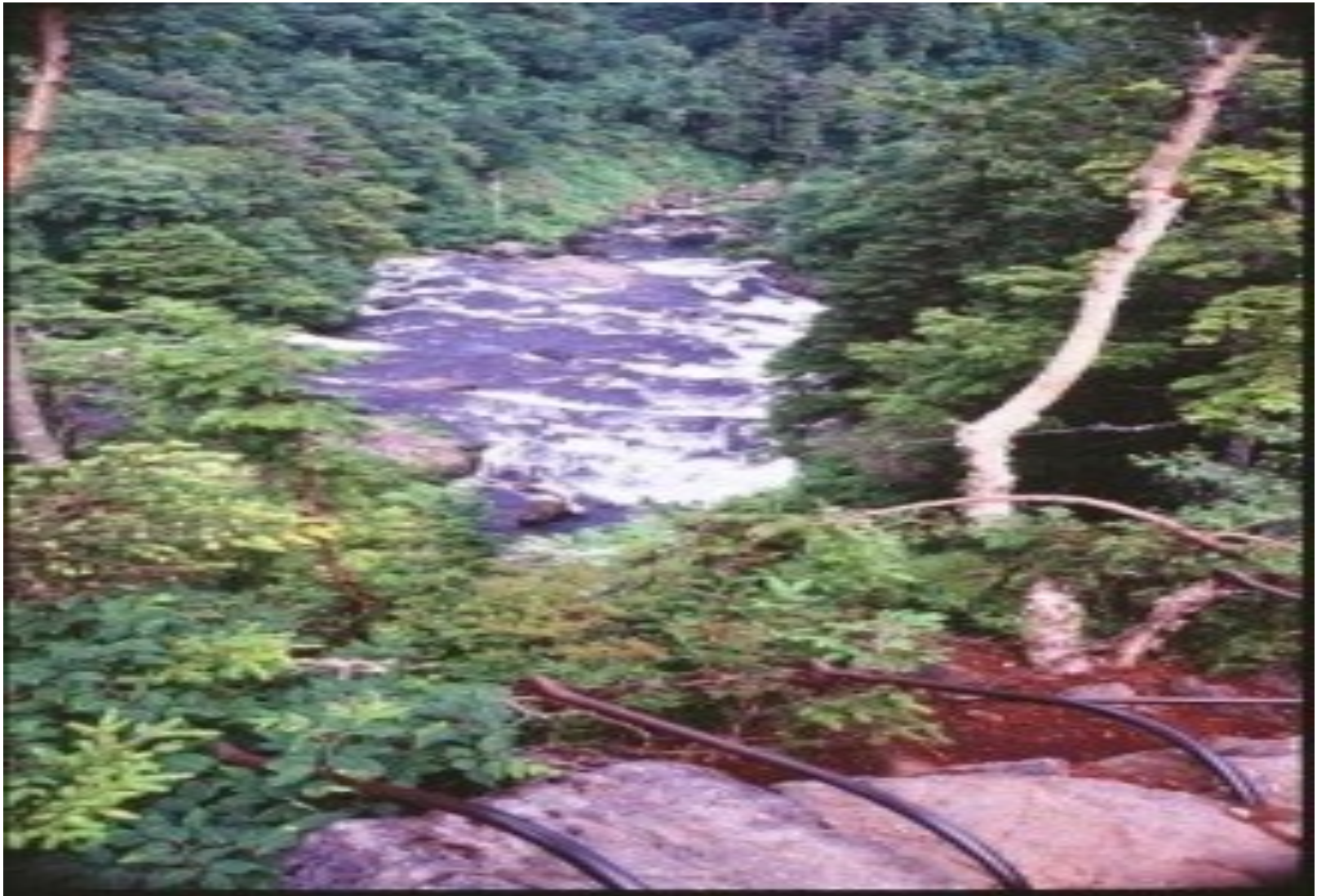


## 錦秋の尾瀬ヶ原





## 眼下に平滑の滝





## 三条の滝二相(雪解けの水)



# 雨の燧裏林道





雨の燧裏林道(色鮮やかな葉の色)





## 尾瀬原生林



## ブナ豪雪に耐えて





## ブナの新緑(6月一斉に芽吹き)

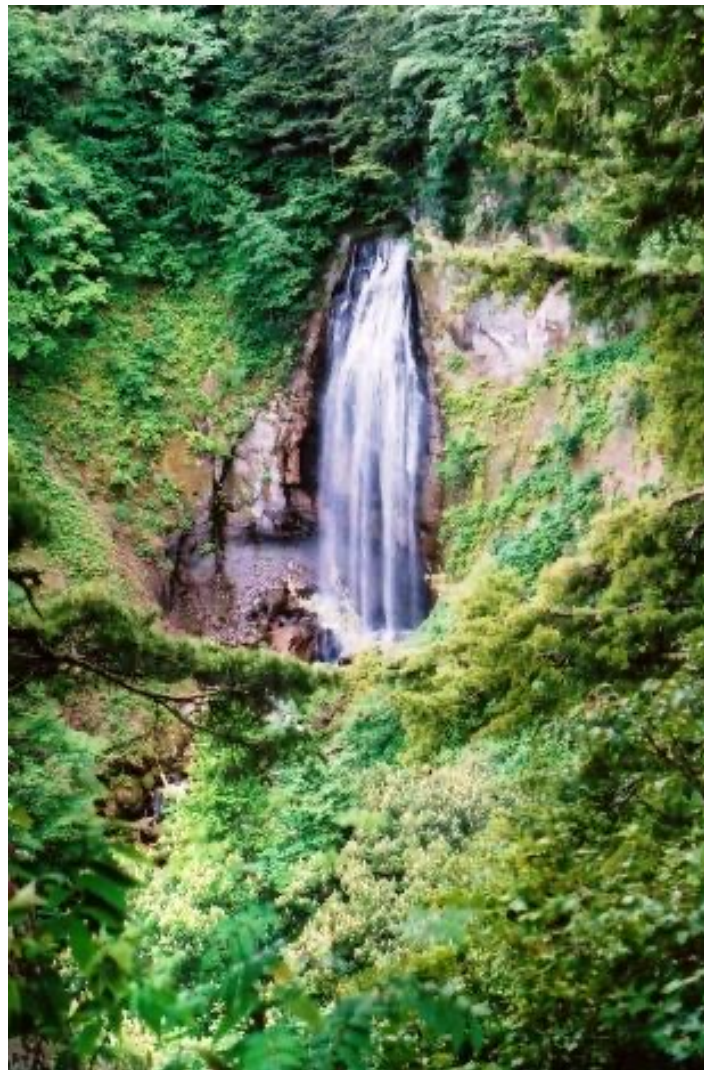




抱返ノ滝(沼山峠より)



モーカケノ滝(御池より)



## 熊沢田代(燧ヶ岳への中程)





## 沼山峠方向(大江山・右)



# 下山時雲の切れ目から尾瀬ヶ原





尾瀬沼一望・遠くに男体山と日光白根山 99-9



## ミノブチより大江湿原(長蔵小屋他)





# 大江湿原(背景に尾瀬沼) ニッコウキスゲ



## 尾瀬沼の秋(全山真っ赤に染まる)





## 尾瀬沼の朝



# 尾瀬沼の秋(小淵沢田代より大江湿原へ)





## 黄金の大江湿原(草紅葉が黄金に)



# 秋色濃し大江湿原





## 会津駒ヶ岳(肩の小屋へ)



## 中門岳の池(遠方に越後の山々)





富士見林道(駒の小屋より大津岐峠へ)



# 燧ヶ岳を眺望(会津駒ヶ岳より)





右方向遠くに男体山



## 越後方面を眺める(中門岳へ向かう)





## 高山植物（至仏山）



ハクサンイチゲ



シナノキンバイ



ホソバヒナウスユキソウ



ミネウスユキソウ



シラネアオイ



タカネシオガマ



高山植物(尾瀬ヶ原、大江湿原、燧裏林道)



タテヤマリンドウ



ギンリョウソウ



ナガバノモウセンゴケ



ヤナギラン



ヒツジグサ



リュウキンカ



## 定宿・七入山荘とぎんりょう会 おわりに



右より関陽郎、堀江繁、常友旭(敬称略)と私

1995年(H7)定年退職後、少し自然に触れたい願望が芽生え、都心から離れたみどり濃い場所として、日光や尾瀬が候補になりました。愚息の家族乗車証には大いに助けられました。いつも出発の朝は午前4時過ぎの始発電車を使い、日光の中禅寺湖のバス停には9時30分頃到着しました。それから赤沼、逆川に出て活動開始となります。原生林の中で野鳥と足下の笹に囲まれた山道は、都心では味わえない贅沢な時間でした。

尾瀬では七入山荘が定宿となり、鳩待峠から尾瀬ヶ原に入っても、尾瀬の山小屋の利用は必要最低限にし、4人の脚力で乗り切りました。星ご夫妻には大変お世話になり御池、会津駒ヶ岳などへの送迎サービスもしていただき感謝いたします。

七入から会津駒ヶ岳に挑戦の時は、天候に恵まれ秋空のなか見事な紅葉やら中門岳の池に映える青空に一瞬のみ込まれました。

なお、欲張って高山植物の一部を掲載しました。自然保護には関係者のご努力で私達は美しい花々に出会いますが、近年の酸性雨等により植物にとっては厳しい環境です。この改善と保護の維持に少しでも役立ちたいと保護団体に登録しております。

今回40年来の使いなれたライカMのおかげで写真集ができました。ライカのレンズはボディ含めて大変重いのですが、シャッター音が軽く、故障知らずの逸品で愛着がまし無機物のライカに人間的な息吹を感じます。